

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092400102		
法人名	有限会社 野いちご		
事業所名	グループホーム 野の花	ユニット名	
所在地	福岡県筑後市大字前津1417番地1		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成27年1月6日	評価確定日	平成27年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑と新興住宅に囲まれた自然豊かな立地に 26年3月より開所しました。地域の方々に恵まれ、ご利用者、ご家族に支えられたグループホームだとおもいます。選ばれるグループホームを目指して、日々スタッフ一同 知恵を出し合い誠心誠意ケアに従事しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して1年のホームである。ホームのパンフレットには「いつまでも住み慣れた地域で、なじみの人たちと暮らせるように…」という言葉が書かれており、開設した26年3月から早々に桜の花見を楽しまれた。同月に笑福亭鶴笑さんが来訪して下さい、広いリビングで南京玉すだれや切り絵などの独演会が行われ、地域の方も招待して楽しいひと時を過ごされた。4月には“恋ぼたる”でホームで使う野菜を買い物されたり、足湯も楽しまれ、7月にはらっきょう作り、8月には梅干し作りと、季節に応じた行事を皆さんで楽しんでいる。“野の花”に入居後、笑顔が増える方も多く、家族の安心と喜びにもなっている。毎日2回、長い廊下での歩行訓練も日課であり、歩行時ご利用者の元気な掛け声と笑い声が聞かれている。今後もご利用者の生活歴や秘めている力を把握し、『今』を大切に更なる取り組みを続けていく予定である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送りノート、玄関への掲示	系列ホーム共通の理念であり、「地域で暮らす」視点も盛り込まれている。開設時に職員に理念を説明し、全体会議や申し送り時に唱和している。理念の中の『今』を大切に・を基に、四季折々の行事を楽しみ、日々感謝の気持ちを持って、職員のチームワークで理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、運営推進鍵へ参加していただいている	開設前から地域の挨拶回りを続けてこられた。道路愛護にも参加し、地域の回覧板に“野の花新聞”を入れて頂けるまでになった。地域の方から野菜の差し入れもあり、グランドゴルフのお誘いも頂き、地域交流を続けている。落語家の慰問時やホームの敬老会にも、地域の方が参加して下さいている。	認知症サポーター養成の講師研修を職員が受講予定であり、地域の方向けの研修をホーム内で開催できればと考えている。お茶会やフラワーアレンジメント等も企画し、子ども達も含めて地域の方が集える機会を増やしていく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	野の花新聞を作成し回覧板に入れていただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、意見交換を毎回行っている。意見をもとに環境整備等行っている。	26年5月に第1回目の運営推進会議を開催した。会議ではグループホームと小規模多機能の役割を説明すると共に、施設周辺の環境整備(水路の草取り等)の要望も頂き、対策の検討を続けている。筑後市の課長がプロジェクターを持参して下さい、制度の説明もして下さい。	家族には会議の目的を説明し、手書きの葉書を郵送している。敬老会の前に会議を行うなど、参加しやすい工夫を続けている。今後も家族に開催日程のアンケートを行うと共に議題等も検討し、参加しやすい会議にしていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、敬老会にも参加していただいた。メールでのやり取りをしている。	開設前から何度も筑後市を訪問し、開設に向けての相談を続けてきた。26年3月(開設月)には市役所で説明会も行われ、制度の説明等を詳しく学ぶ機会になった。26年10月には市の担当がホームに来て下さり、介護計画や運営等の指導を頂く事ができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	声掛けの工夫を職員間で話し合い、実行している。	身体拘束に関する勉強会を行い、職員の意識を高めている。ご利用者の状況を確認し、体調の変化やリスクが発生した場合は原因分析し、家族とも協力し、最適なケア方法を職員全員で模索している。ご本人の安心に繋がる取り組みを続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施 資料をファイルしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の実施 資料をファイルしている。	開設時に権利擁護に関する職員研修が行われた。27年1月はパンフレットを使用し、全体会議で勉強会を行う予定である。家族の方にも入居時に制度の説明を行い、家族背景の確認も続けている。制度を利用予定の方もおられ、後見人の方との話し合いも行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や更新時は必ず御家族に説明し疑問等あればその都度説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議時に要望を伺い、可能な限り実現できるよう支援している。	家族の面会時に普段の様子を伝えたり、毎月手紙での報告も行っている。家族の思いを伺えるように温かい声かけを続けており、家族の健康面の相談にも応じている。今後も更に、玄関の意見箱が利用しやすくなるように工夫を続けていく予定である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より、各職員からの意見を聞き、全体会議時等に話し合いをしている。	毎月の行事担当が積極的にアイデアを出し合い、日々の楽しみを増やしている。「外出を増やしたい」と言う職員の希望も多く、ご利用者の状態に応じて、柳川の川下りを楽しむ事ができた。主任やリーダーが職員の相談に応じており、専務やホーム長と共に対策の検討を続けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	公休希望を聞くことにより、資格取得や子育て支援ができるように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢・性別に優劣をつけていない。 既存の職員がマンツーマンで指導を行っている。	採用時は“やる気”を大切にすると共に、採用後も“職員を信じる”という姿勢を大切に、職員個々の能力を引き出している。マッサージが得意、ケアセラピーや調理師免許を持つ方、パソコンの指導をして下さる職員等もおられ、日々の業務で特技を発揮して下さっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員会議や申し送りを通して各利用者様に応じたケアの方法を検討、実施している。	介護保険法の「尊厳と自立」の視点を基に、ご利用者の能力を見極めるために、日々の関わりを大切にしている。専務や主任は、職員が心にゆとりを持ち、日々「待つケア」を行えるように職員に声かけをしている。ホーム長も「自分がされて嫌な事はしない」等を職員に伝えている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を野の花代表として受けてもらっている。また、各業務ごとに責任者を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会へ参加している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や御家族、前施設の職員等に尋ねている。 入居前に、ご本人に来訪していただいている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護支援専門員が主ではあるが、事前の面接を繰り返し関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が行い、全職員に周知している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の能力や残存機能に応じて料理や掃除等職員と一緒にいただいている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に普段の様子を伝えたり、毎月手紙での報告も行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中の面会に基本的に制限を設けず、いつでも来ていただけるような雰囲気づくりに努めている。	入居時から生活歴の把握をしている。ご利用者と散歩をしたり、ドライブや花見、買物の時などに馴染みの酒店や昔行かれていた商店、馴染みの花見の場所などを教えて下さっている。家族や友人もホームに来て下さり、ゆっくり過ごして頂いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通じて共同で作業したり、会話が出来るよう支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族から相談等あった場合は対応している。 退所後の面会等は実施できていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべくご本人の生活歴にあった過ごし方が出来るように支援している。 すべての方に対して出来ているわけではないため、今後もっと積極的に行っていく。	会話好きな方が多く、団欒時や入浴時、散歩の時に戦争の話や昔食べていた“すいとん”等の話をして下さる。昔の歌を流す事で、昔話に発展する事も多く、得られた情報はアセスメント用紙や介護支援記録に記入し、職員会議の時に共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前施設や御家族から情報を得ている。 普段も入居者様との会話の中で尋ねるようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の会議時や、毎日の申し送り時に話し合い、共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議時に話し合いを行っている。 その他で気づいたことは、その都度介護支援専門員や他職員に報告している。	フェイスシートに生活歴や性格、趣味、嗜好、職歴等を記入し、アセスメントシートに日常生活動作等を記入している。担当職員がモニタリングを行い、全職員で検討しており、「グランドゴルフを継続してほしい」「下肢筋力の維持をしてほしい」等の家族の要望も伺い、介護計画に盛り込んでいる。	要望が少ない方もおられる。今後も全ての方の“生活の意向”を把握し、介護計画を膨らませると共に、職員間で共有していきたいと考えている。“野の花”オリジナルの行事企画も行い、更なる楽しみを増やしていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に細かく記入し、特出すべき点は申し送りノートへの記入、毎朝夕の申し送りを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、外泊、面会等ご本人やご家族の要望に応じて制限なく対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、外出、買い物等支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、御家族が希望する医療機関を利用させていただいている。 御家族や主治医での報告等毎回行っている。	月2回往診を受けている方もおられ、家族が受診支援を行う時も含めて、家族と受診結果の共有をしている。個別の症状(貧血など)に応じて食事の工夫もしており、医療保険でマッサージを受けている方もおられる。職員の観察力も高く、異常の早期発見、早期対応に繋げている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	こまめに情報の共有を行っている。 変化や、気になることがあればすぐに報告している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在、入院された方はいないが、医療機関との協力体制をとっている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、対象となる入居者様はいないが、支援できる体制づくりを行っている。 全職員が把握できるように周知徹底をする。	入居時に終末期の説明を行うと共に、体調変化に応じて繰り返し意向確認を行う事も伝えている。現在は、「最期までここで」「自然で苦しまずに」と願う家族ばかりで、家族の協力も頂きながらの終末期ケアである事の同意も頂いている。24時間体制でホームの看護師に連絡が取れ、夜間も往診をして頂ける体制ができている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルはあるが、対応は看護師に頼るところが大きい。 勉強会等行う。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。 地域や行政との関係をさらに密に構築していく。	ホーム周辺の浸水対策で敷地全体を地上げしている。建物はオール電化で、発電機や卓上コンロ等も準備している。井戸水も利用でき、災害に備えて保存食や水を準備し、系列施設の応援体制もできている。26年5月に初めて消防署と夜間想定訓練を行い、11月は地域の方も見学して下さった。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、日頃から言葉遣いには注意している。	トイレのドアは必ず閉めている。意思決定も大切にしており、ご本人の着たい洋服を尋ねて希望の洋服を着て頂いている。言葉遣いにも配慮し、常に丁寧語で会話するように努めており、職員同士で注意し合える環境も作られている。個人情報管理にも努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、なるべくご本人の想いや要望を聞くよう心掛けている。 すべての入居者の要望を把握できるようにこころがける。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方その方のペースでそれぞれの希望に沿って支援するように心がけている。 職員が業務に追われている時は見落とし等がある。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みに応じて対応している。 更衣時は、なるべくご本人に選んでいただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様にもご飯づくりや準備に参加していただいている。 メニューのリクエストを聞いている。	昼食と夕食は7品目を提供し、彩りにも配慮している。ご利用者の好物である「だご汁」なども好評で、旬の食材も採り入れている。買物や下ごしらえ、盛り付け、下膳、食器洗い等を手伝って下さり、今後も参加者を増やしていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合わせた形態での提供をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	付き添い、声掛けにて毎回必ず行っていたいっている。 口腔内のチェック等行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間の調節等、個別に対応している。	昼間は全員トイレで排泄されており、布の下着を着用し、自立している方もおられる。入居前は、夜間にオムツを使用していた方も、リハビリパンツでの対応が可能になった方もおられ、理念にある「あきらめない」ケアを続けている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便マイナス3日目でのきな粉牛乳の提供。 主治医への相談を行っている。 排便確認の徹底を行う。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や職員を変えての対応をし、工夫している。 清拭やドライシャンプー等活用している。	重要事項説明書にも「毎日の入浴が可能」と明記している。ご本人の習慣を尊重し、ご本人の希望に応じて入浴をして頂いている。入浴時は職員との会話を楽しまれ、「月が出た出た～」等の歌も聞かれている。季節に応じて柚子湯等も楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活歴に合わせて、就寝時間起床時間を調整している。 主治医への相談。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事表等活用し、把握に努めているが、完璧ではない、看護師に頼るところが大きい。 頻りに薬事表や主治医表に目を通し、把握に努めていく。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事、日々のレクリエーションを通じて気分転換を図っている。 要望に応じて散歩を行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事の実施、体調や希望に合わせて買い物に行ったりしている。 日々の外出の機会を増やしていく。	ホーム周辺の散歩をされている。開設時から毎月の行事担当職員を決めた事で、26年3月から桜の花見に出かけたり、その後も四季折々の花見を楽しまれている。八女市黒木町やクリーンパル八女、柳川の川下りなどにもお連れし、買い物も一緒に行かれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様でお金を持っておられる方はいない。 要望等あれば、御家族への了承を得て購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の作成。 電話の要望があれば、職員が電話をかけ、変わっていただいたり、面会にきていただいている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活導線上に危険物を置かないようにしている。 季節に合わせた飾りを掲示している。 花等飾っている。	1日3回、ホーム内の掃除を行い、家族からも「綺麗ですね」と褒めて頂いている。リビングは広く、空調の調節等の温湿度管理を行い、西日の眩しさ等にはカーテンで調節している。レクリエーションの時に季節の飾りを作成し、季節感を味わって頂いている。小規模まで続く長い廊下を活用し、1日2回の歩行訓練も日課となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席の工夫をしている。 その他はご自由に過ごしていただいている。 また、職員が間に入る等配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきていただき、写真等も置かれてあり、ご本人が使いやすい様に配置している。	26年3月の入居時は、ご利用者にお好みの居室を選んで頂いた。家族が鉢植え等を持ってきて下さり、職員と一緒に水やりをされている。タンスや人形、写真等を飾られたり、職員のアイデアで、ご主人の背広を居室に掛けている方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様に応じて、作業やお手伝いをしていただいている。 一部の入居者様になりがちなため、要望等把握していく。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	○ 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	○ 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	○ 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	○ 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	○ 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	○ 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		